
眠り姫は甘い夢を見る

ぱっつん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠り姫は甘い夢を見る

【Nコード】

N4271G

【作者名】

ぱっつん

【あらすじ】

僕は好きな子がいる。けれど、僕は知っている。その子の好きな人を。

(あれ?)

教室に入った僕は、あるものを発見した。

(眠ってる・・・)

それは、自分の席で眠っている桜木さんだった。

僕がこの桜木若菜と出会ったのは今年、同じクラスになったときだった。

たまたま隣の席になって、仲良くなった。

それからというもの、僕の親友である葵を交えつつ、ちよくちよく遊んだ。

葵と、僕と桜木さん。

この三人のグループでいつも行動していた。

「桜木さん」

名前を呼んでみる。だが反応はない。

桜木さんの近くまでよると規則正しい寝息が聞こえて、思わず起こそうとした手をひっこめる。

気持ちよさそうに寝る彼女を見ていたら、とてもじゃないけど起こせなかったし、

それに、彼女の顔をもっと見ていたいという気持ちがあった。

顔を覗き込んでみるとすっかり目は閉じていて、長い睫毛が影を落

としていた。

こんなに近くで彼女の顔を見る。
たったそれっぽうちのこと、こんなにも心拍数が上がってくる。

「若菜」

我ながら、自分は卑怯だと思う。
呼びたくても、いまさら呼ぶことのできない名前を
こうやって彼女が寝てるときにしか言えないのだ。

「好きですよ、すごく」

思わず呟いた言葉が、虚しい。
だって僕は、知っている。
彼女が、誰が好きなのか。

僕が彼女のことをどれだけ想っていても、その想いは伝わらないんだ。

そんなこと、分かっている。
だから僕は、こうやって、彼女が聞いていないところでしか、言葉にできない。

それが余計に虚しくて、哀しくて切ない。

「若菜、」

僕はゆっくりと手を伸ばし、彼女の髪を撫でた。
どうせ、もう触れることなんて、ないのだ。

そう想って彼女のやわらかな髪に触れるたび、たまらなく、胸苦しくなる。

締め付けられるような、甘い苦しみと、切ない痛み。
胸の奥がちくちくと痛み、心が雲に覆われてしまったかのようにも
やもやする。

(なんだろう、この気持ち)

憤り。

それは誰に対してだろう。

こんな情けない自分自身が、それとも

「ん・・・」

「ッ!？」

彼女が急に声を発したので、思わず僕は後ずさってしまった。
もしかして起きていたんじゃないかと焦ったが、その瞳は閉じられ
たまま。

寝言だと分かったのもつかの間。

「・・・あ、おいくん」

ああ、そうか、と思った。

僕は知っている。

彼女が、誰を想っているのか。

誰もいない教室で、私は目を覚ました。

何だか、とても幸せな夢を見ていたかのような気分で目覚めれた。

どんな夢を見ていたのかなんて、もう忘れたけれど。
とても温かい夢で、誰かに、頭を撫でられたような感触があった。
妙にリアルで、もしかしたら夢じゃなかったのかもしれない。
でも起きたら誰もいなかったし、仮に撫でられてたとしても、私に
分かるはずもない。

撫でてくれたのが、葵くん、だったら良いな。

そう思いながら私は誰かが触れてくれた髪を手で押さえた。

(この憤りは葵に対する、嫉妬、だったんだ)

(後書き)

t i t l e : m i t s u

たまには失恋ものも。
いやあ、男の子視点って難しいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4271g/>

眠り姫は甘い夢を見る

2010年11月19日16時49分発行